

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通安全（自転車・歩行者）	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間 13：15 ～ 14：45	
司会者名（所属）：藤原章正（広島大学）	
討議内容	<p>セッション全体： 道路空間再配分の必要性が議論される社会情勢を受けて、歩行者・自転車の安全に着目した研究発表がなされた。自転車・歩行者の事故データや挙動データの獲得に限界があるなか、3編の発表研究はいずれも工夫を凝らしながらデータを取得し、さらに独自性の高い分析を行った点で有意義な研究であった。特に、ミクロな歩行者挙動を正面から扱う論文からは本分野の新しい研究方向性を感じ取ることができた。これらの研究成果を具体的な施策へと展開されることが望まれる。</p>
	<p>（97） 亀井省吾（大阪市立大学）： 既存の事故分析モデルを自転車事故に適用した研究である。事故件数0のケースが支配的なデータに対数線形モデルを適用することの妥当性、歩道施設整備およびリスクと事故件数との関連性に関する推定結果の解釈、モデルの適用などについて質疑があった。また、同一リンクであっても上りと下りで特性が異なる自転車交通の事故リスクをリンクでとらえることの妥当性について議論がなされた。</p>
	<p>（98） 内堀大輔（北海道大学）： 右折車と横断歩行者との錯綜について、衝突回避判断位置や時間的余裕といった独自の指標を提示する研究である。これらの指標の分散の大きさ、平均値を使用することの意味について質疑があった。また、ドライビングシミュレータを用いた従前の分析との違い、指標の適用方法について議論があった。</p>
	<p>（99） 北川直樹（東京大学）： 自動車と歩行者が共存する道路空間の再設計を目指して、両者の行動の相互作用モデルを提案する新しい研究である。疑似最尤法の手順と解の安定性・一致性、複数均衡の考慮などについて議論があった。また、歩行者群を扱う場合や繰り返し錯綜が発生する場合におけるプレイヤーの扱い方、歩行者優先エリアで行った本分析の他エリアへの適用性などについて興味深い質疑がなされた。</p>